

2019年度第4四半期決算説明会  
主な質疑応答

● 全社

Q：COVID-19の影響を教えてください。

A：販売は、スライド5やスライド16にある通り、多くの事業・商品でマイナスの影響を受けている。

プロジェクターや商業・産業IJP、SIDM、小型プリンターなどのBtoB商品は、商談ができない状況であり、販売が停滞している。

家庭向けプリンター本体やインクも、特にインドや東南アジアではロックダウン状態が継続していることもあり、影響を受けている。

北米・西欧・オーストラリアなどでは、在宅勤務の需要が発生し、インクカートリッジモデルを中心に、当初の想定より増えているが、これがいつまで続くかは不透明。

中国は、在宅での学習用に需要が発生しており、大容量インクタンクモデルが、COVID-19影響が発生する前と同水準で推移している。

ロボットやマイクロデバイスは、比較的影響は少ない。

生産は、中国の製造拠点では概ね正常化したが、フィリピン、インドネシア、マレーシアの製造拠点では、制約を受けている。回復に向けて取り組んでいるが、完全回復への時期は不透明であり、第1四半期の販売にも影響はある。

Q：2019年度に入ってから、販売費および一般管理費が抑えられている状況が続いたが、COVID-19影響がある2020年度の上期は、さらに削減する余地があるのか。

A：プロモーション活動に制約が生じているので、こうした状態が続けば、費用はさらに抑制される。

Q：2020年度の設備投資の水準を教えてください。

A：2019年度は800億円の設備投資額であったが、オペレーティングリースを除くと713億円であった。

2020年度はさらに水準が下がり、オペレーティングリースを除くと600億円以下となる見込み。

Q：2020年度の緊急アクションとして、資金の借入などの予定はあるのか。

A：元々の計画でも、大規模な経済停滞に備えて手元資金は厚めに確保していたので、現時点で資金面での問題は無い。加えて、COVID-19影響がさらに拡大・長期化した時に備えての準備も進めている。

Q：COVID-19影響により、拠点の統廃合などを考えているのか。

A：考えていない。

Q：業績予想を未定とした一方で、配当を据え置くと予想した背景を教えてください。

A：足元では、厳しい状況ではあるが、資金的にも問題なく、また、将来成長に向けての戦略も進展しているので配当を据え置いた。

● プリンティングソリューションズ

Q：大容量インクタンクモデルの伸長率はどの程度だったか教えてください。

A：前年同期に対する伸長率は、第4四半期は10%以上、年間では11%の増加となった。

Q：大容量インクタンクモデルのエマージング地域での販売状況を教えて欲しい。

A：第4四半期は、1月までは順調に伸びていたが、3月から足元にかけては厳しい状況になっている。インドや東南アジアではロックダウンにより外出できず、お客様も店舗に行けない状況である。

●ビジュアルコミュニケーション

Q：ビジュアルコミュニケーション事業の第4四半期実績は厳しかったが、今後の回復を予想しているのか。

A：COVID-19影響がある中で、第4四半期以上の水準を予想するのは厳しい。この状況が継続することを想定しながら、環境変化に対応するような取り組みを続けていく。

以上